



秋冬菌発生スタート。 今後の管理について

【指導員】 園芸課 鈴木 琢磨

9月中旬頃からキノコの秋冬菌の発生が始まりました。今後は稲刈り作業の終了と共に菌床栽培が本格化してくると思われまます。ここでは安定出荷に向けた発生管理について紹介いたします。

【菌発生操作後の管理】

温度管理

- ・キノコは朝から夕方まで発生します。ハウス内の温度は23℃に保つことが基本です。
- ・夜温が低い場合は夕方に暖房機の温度を13〜16℃にセツトし、変温管理します。

散水管理

- ・基本的に発生中は散水を行いません。
- ・初発、また追い芽の発生により長期間散水を行っていない菌床は、非常に水を欲しがっています。出荷規格までのキノコを早めに収穫してから菌床上面にたっぷり散水を行って下さい。

換気管理

- ・朝と夕方の温度の低い時間帯に換気を行って下さい。
- ・酸素濃度の高い状態で温度管理を行った方が、菌床の温度が上がりがやすく、雑菌の繁殖も抑えられます。

休養管理

- ・集中発生後の菌床や小さいキノコが発生する菌床変形が

【害虫の生態と対策】

○ナメクジ（写真1）

生態

- ・広食性（キノコに限らず、ほぼなんでも食べます）
- ・繁殖時期は初冬と早春。
- ・菌床栽培における隠れ場所は菌床側面の水際付近。

防除

- ・生息場所を無くすための施設周辺の除草。
- ・床への忌避剤の散布。（つばき油、ラベンダーオイル、ハッカ油、木酢、食酢が有効。ビールに引き寄せられるようなので缶を置くのも効果的です）
- ・成虫を割り箸で捕殺する。（夜行性のため夜間の捕殺が効果的です）



▲（写真1）ナメクジ

○ナガマドキノコバエ、ガカ ンボ（写真2）

生態

- ・幼虫はキノコを優先的に食害し、菌床も食害します。
- ・20℃及び25℃での孵化率が最も高く15℃では半減します。
- ・繁殖を鈍らせるには15℃での発生管理が効果的です。



▲（写真2）ナガマドキノコバエ

○ケヅメカ（写真3） 生態

- ・近年、管内での繁殖が増えています。
- ・幼虫のキノコへの食害は無いですが、菌床内に侵入して食害するため菌床が傷みやすくなります。

ハ工目の防除

- ・換気口、ハウスの出入り口に目の細かい防虫ネットを設置します。
- ・光に集まる性質があるため、夜間は消灯します。
- ・光誘引による捕虫機具の活用。または粘着シールによる捕殺をします。
- ・菌床表面に湯散布し、幼虫を駆除します。



▲（写真3）ケヅメカ

◆ ◆ ◆
管理と防除を徹底し、高品質なキノコを栽培しましょう。